

CIC、データ連携処理基盤に「Syncsort DMExpress」を採用

～ 高い開発生産性と処理パフォーマンスを活かし、あらゆるデータ連携処理を強力に支援 ～

株式会社アシスト(本社:東京都千代田区、URL:<https://www.ashisuto.co.jp/>、以下、アシスト)が提供する ETL ツール「[Syncsort DMExpress](#)」(開発元:米 Syncsort Incorporated.)が、株式会社シー・アイ・シー(本社:東京都新宿区、URL:<https://www.cic.co.jp/>、以下、CIC)のデータ連携処理基盤に採用されたことを発表します。

クレジット会社の共同出資により昭和 59 年に設立された CIC は、消費者のクレジットやローンに関する信用情報の収集・管理・提供・開示を行う、割賦販売法および貸金業法に基づく唯一の指定信用情報機関です。主に割賦販売や消費者ローン等のクレジット事業を含む企業を会員とし、消費者の支払能力に応じた適正なクレジット契約の実現、迅速な情報提供によるクレジット・ローン取引の促進、消費者の多重債務・自己破産の未然防止といった、重要な社会的なインフラとしての役割を担っています。

会員企業や消費者からの信頼に応えるため、情報の保護や整備、安全な提供に向けて日々システムの安全・安定稼働を追求する同社では、7 億件を超える信用情報を運用しています。加盟会員企業向けに情報を提供するシステムや社内の情報系システムなど、様々な局面でデータは活用され、従来は、基幹システムとサブシステムといったシステム間のデータ連携処理には、Java や COBOL を用いたスクラッチ開発でプログラムを実装していました。しかし、文字コードやデータフォーマットの違いを吸収するためのプログラミングが都度必要なことから、開発者の即戦力化や開発工数の短縮が難しい状況でした。2014 年に策定した「中期 IT 計画」で IT コストの最適化や IT 基盤の標準化への取り組みを開始し、その一環でデータ連携処理基盤の見直しと ETL ツールの導入検討に着手しました。

ETL ツールの選定では、コスト、開発生産性、機能、処理性能等の観点から複数の製品を比較検討し、基幹システム構築・運用に携わる株式会社日立製作所(URL:<http://www.hitachi.co.jp/>)が提案した Syncsort DMExpress を採用しました。決定にあたり、ユーザー訪問で実感した既存ユーザーの高い評価の声も、強力な後押しになりました。アシストは、これまでに蓄積した豊富なノウハウを活かし、オンサイトでの開発支援や専任のサポートメンバーによるサポートサービスの提供を通し、CIC の情報活用を支援しています。

2015 年に Syncsort DMExpress を導入して以来、基幹システムと情報系システムとの連携をはじめ、様々な局面でシステム間連携における活用が進み、以下のような効果が生まれています。

- ・ GUI による高い開発生産性／操作性により、スクラッチ開発の 5 分の 1 程度の工数でデータ連携処理プログラムを実装
- ・ データ変換用の豊富な関数の活用で複雑なデータ連携開発を容易にし、開発担当者を即戦力化
- ・ 中期 IT 計画で更改されたシステム間連携のインターフェースの設計を Syncsort DMExpress で行い、システム間連携における標準基盤として活用し、100 種類以上の処理を実装
- ・ ETL ツールとしての活用だけでなく、従来利用していた高速アンロードユーティリティの代替として、大量データの高速なアンロードを実現
- ・ 先行して導入されたシステムにおける実績が評価され、基幹システムの更改プロジェクトでも採用が決定

CIC では 2018 年に基幹システム更改プロジェクトに着手しており、2020 年には現行システムとの並行稼働を開始し、2021 年には完全移行を予定しています。基幹システムの更改後は、現在のデータ抽出／データ連携中心の用途を拡大し、データベースのプロシージャで実装しているバッチ処理を Syncsort DMExpress に置き換えることも視野に入れ、データ統合基盤としての更なる活用を目指しています。

■「Syncsort DMExpress」について

パフォーマンスに特化したソフトウェアを 50 年以上開発している Syncsort 社の“最も賢い超高速 ETL”DMExpress は、データ結合やソート、マージ処理が伴うバッチ処理、またデータウェアハウス、データマート構築時のデータ結合処理などの ETL 処理開発に威力を発揮する ETL ツールです。独自の高速処理アルゴリズム、並列処理などにより、システム資源を最大限に有効活用してバッチ処理時間を劇的に短縮します。メインフレーム環境からのダウンサイジング時に課題となる高速性と安定性を確保し、コモディティなオープン環境でもメインフレームと同等以上のパフォーマンスを実現します。アシストは、通信、金融、公共業界をはじめ 3,600 ライセンス、390 社以上の導入実績を誇ります。

■ニュースリリースに関するお問い合わせ

株式会社アシスト 広報担当:田口

TEL:03-5276-5850 URL:<https://www.ashisuto.co.jp/contact/press/>

■「Syncsort DMExpress」に関するお問い合わせ

株式会社アシスト 東日本技術本部 情報基盤技術統括部 ビジネス推進部 担当:宇野

TEL:03-5276-3653

URL:<https://www.ashisuto.co.jp/dmexpress/>

※記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

※ニュースリリースに記載された製品／サービスの内容、価格、仕様、お問い合わせなどは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。